



The University of Tokyo Hospital

## 第 55 回

# 東京大学医学部附属病院・22 世紀医療センター 産学連携メディカルフロンティアセミナー

日時：平成 26 年 12 月 19 日(金) 18:00~19:30  
場所：東大病院 第 3 会議室

## 2 型糖尿病治療薬メトホルミンによる免疫疲弊解除

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
免疫学分野 教授 鵜殿平一郎博士

メトホルミンは世界で最も多く処方されている 2 型糖尿病治療薬である。メトホルミン服用患者はそうでない患者と比較して、発癌率および癌死率が有意に低い。その原因として血糖降下作用、癌幹細胞傷害作用などが提唱されているが、確かなことはわかっていない。鵜殿先生は、メトホルミンに腫瘍に浸潤した CD8T 細胞の活性化作用があることを見いだされました。興味深い事に、昨今注目されている免疫チェックポイント分子 Tim-3 を発現している CD8T 細胞こそが最も活性化されている。つまり機能の低下した疲 (exhausted) CD8T 細胞の再活性化を促す。そのメカニズム解明の途中経過とがん治療への応用についてご講演いただきます。

主催：22 世紀医療センター  
免疫細胞治療学講座  
連絡先 垣見 36590